



取扱説明書

フルリクライニング車いす
RR80-PF シリーズ



● 目 次 ●

安全に関するご注意
同梱部品の確認
安全ラベル
各部名称
ご使用に関するお願い
使用方法
安全ベルトの使用方法
ブレーキの使用方法
肘掛けの高さ調整方法
肘掛けの使用方法
脚部の使用方法
背ベースシートの調整方法
奥行き調整方法
段差乗越え方法
ガススプリング
保守・点検
お手入れの方法
主な乗り方
仕様
製品記録
保証とアフターサービス

このたびはカワムラサイクルの車いすをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、商品を安全にご使用いただくために必要な注意事項や正しい使用方法
が記載されています。

取扱説明書は適宜更新しております。最新版を弊社ホームページからダウンロードしていただけます
(<http://www.kawamura-cycle.co.jp/product/manual.htm>)。

ご使用になる前に必ずお読みください。また、必要なときにいつでもご覧になれるところへ大切に保管し
てください。

※ご使用になる前に必ずお読みください。

安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

[表示マークの説明]

※正しい取り扱いに関する必要事項をシンボルマークで表示しています。

 警告	取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
 注意	取り扱いを誤った場合、障害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
 禁止	してはいけないことを示しています。
 強制	必ずしなければならないことを示しています。

 警告 取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。	
 禁止	●下記の場所には近づかないでください。 ・エスカレーター ・ゆかみのある場所 ・凹凸の激しい場所 ・深い砂利道 ・凍結した道路や雪道 ・防護柵のない側溝や路肩付近 ・大きな段差 ・大きな溝 ・急な坂道 ・交通量の多い場所 ・混雑している場所 ・幅の狭い場所 ・夜間、雨や雪が降っているとき ・風が強かったり霧が深い日 ●勝手に改造・分解しないでください。 強度や耐久性が劣化して危険です。また、事故の原因になりますので、絶対に改造・分解しないでください。本来の装着品を外してのご利用も改造の対象となります。



警告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。

- 階段などで利用者を乗せたまま車いすを持ち上げる場合、固定されているパイプを3～4人でしっかり支えてください。

※肘掛（アームサポート）、脚部（レッグフットサポート）、押手（手押しハンドル）を持たないでください。これらの箇所を持ち上げると、車いすから外れるなど、大変危険です。



- 車いすを持ち上げる際に、車いすにお座りの方の体の一部を持たないでください。

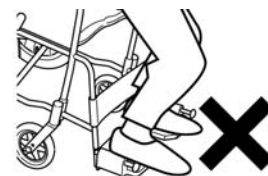
- 車いすを火気に近づけないでください。

シート部が燃えたり、プラスチック等が変形したり、熱くなった金属部分でやけどするなど危険です。熱湯消毒についても同様です。



- 絶対にステップ板（フットサポート）の上に乗って車いすに乗り込んだり、降りられるときに立ち上がらないでください。車いすごと転倒し危険です。

※車いすに乗り降りの際は、必ずステップ板（フットプレート）を上に乗ね上げてください。



禁止

- 車いすに乗り降りの際は、必ずブレーキをかけて車いすが固定されていることを確認してください。

- 傾斜地では、駐車しないでください。

傾斜地では、ブレーキをかけても車いすが動く場合があります、大変危険です。

- 傾斜地での走行は、車いすが予想外の方向に進むなど大変危険です。



- すべりやすい床面や濡れている床面では、ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。十分に気をつけてください。

- 回転している車輪や可動部に手や指を差し込まないでください。ケガの原因となります。

また、タイヤを持って車輪を操作しないでください。ブレーキ等で指をはさみ、大変危険です。

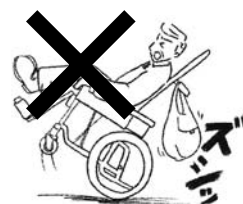
- 複数の人数が載らないでください。この車いすは、一人用です。破損・事故の原因となります。

- 背もたれに重いものを引っ掛けたり、ポケットに重いものを入れないでください。

過度の荷物はバランスを崩し、転倒の原因となります。絶対に避けてください。

- 倒れ掛かるような急激な座り方はしないでください。

また、座シート部以外に腰かけないでください。転倒または壊れてケガをする恐れがあります。





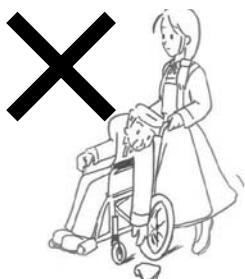
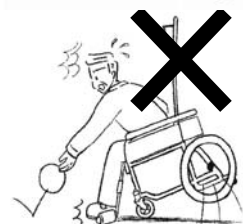
警告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。



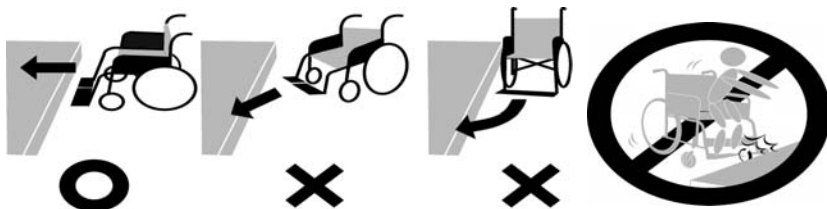
禁止

- 大きな段差のある場所・階段では使用しないでください。
- 段差を乗り越える際には、勢いをつけて乗り越えないでください。大変危険です。
また、フレーム及びキャスタ車輪等の故障の原因となります。
- 段差や凹凸などのある路面等を走行するときは、体が前のめりになりすぎたり、前キャスタを浮かせずすぎたりしないでください。また、車いすに乗ったまま前方の地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢をとらないでください。転落・転倒の原因となり大変危険です。
- 車いすでの走行中は、身体を乗り出さないでください。車いすが不安定になり危険です。
- 車いすに座ったまま前方の地面に置いてある物を拾う等、強い前傾姿勢をとらないでください。
車いすごと転倒し危険です。
- 介助者は、絶対に車いすに載って介助しないでください。



必ず守る

- この車いすは、室内用に設計されています。室内でお使いいただく事を推奨いたしますが、やむを得ず道路通行の際は、必ず右側通行してください。また、歩道を通行してください。
- ご利用者の心身の状況、症状を十分考慮し、適切な介助を行ってください。
- 移乗の際は、介助者がしっかりと介護者を支えて行ってください。
- 発進するときや段差を乗り越えるときには、キャスタのタイヤが真っ直ぐになっていることを確認してから走行してください。
斜めに進入したり、キャスタタイヤが斜めになった状態で発進すると段差を乗り越えられなくなったり、キャスタの破損やキャスタからタイヤが外れる原因になったり、事故の原因となり大変危険です。



- 踏み切りを横断の際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。
斜めの角度で進入するとレールの溝にはまって危険です。必ず介助者と一緒にわたってください。





警告

取り扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。



必ず守る

- 坂道の上り下りの際は、必ず介助者に支えてもらって走行してください。上るときは前向きで、下るときは後ろ向きで走行してください。

※坂道を前向きで下ると乗っている人が前へずり落ちる、前へ倒れる、スピードが出やすいなど、非常に不安定になり危険です。また、介助者がバランスを失った時も危険です。



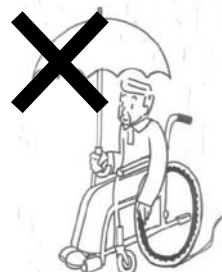
注意

取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。



禁止

- 本説明書に記載されている調整箇所以外の調整を行わないでください。事故の原因となります。
- 小さなお子様には使用しないでください。
- リクライニング（背もたれを倒した）状態で走行しないでください。転倒の恐れがあります。
- リクライニング機構（メカニカルロック）部に手や足を入れないでください。
- 急発進、急停車、急な方向転換をしないでください。
- 夜間、雨降りは外出をお控えください。通行者や車から発見しにくくなり、事故の原因となります。
- 走行するには片手で操作しないでください。傘をさしながら、片手に荷物を持ちながらの片手操作ではバランスを崩す原因にもなります。両手で操作し、バランスを保ちながらゆっくりと走行してください。



- ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。
- 車いすを投げたり落したり、衝撃を加えないでください。フレームが歪んだり、破損の原因となります。
- 車いすを物品運搬など車いす以外の目的に使用しないでください。
- コントローラーを落下させたり、衝撃を与えないでください。故障の原因になります。
- 電動リクライニング用コントローラーがフックにかかっていることを確認してから走行してください。外れたまま走行しますと破損、誤作動の原因になります。
- 電動リクライニング用コントローラーのコードを引っ張りすぎないでください。コードが伸びて車輪等に絡まる恐れがあります。



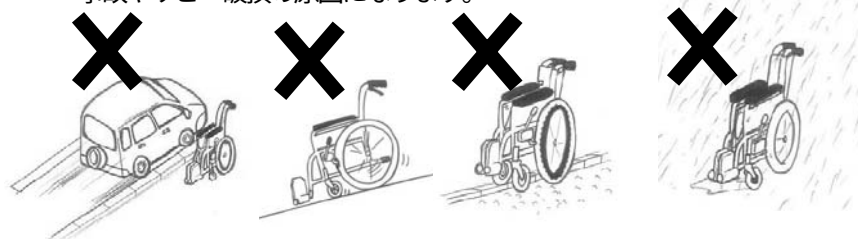
注 意

取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

禁止

●下記のようなところに車いすを放置しないでください。

- ・車道に近いところ
 - ・路面に段差や凹凸のあるところ
 - ・海沿いの屋外（潮風の当たるところ）
 - ・ほこりの多い場所
 - ・非常口、消火器、消火栓の前
 - ・直射日光の当たる場所（車内も含む）
 - ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
 - ・子供がいたずらをする恐れのある場所
 - ・人通りのあるところ
 - ・湿気の多いところ
 - ・雨、風のあたる場所
 - ・坂道
 - ・暑い日や寒い日の戸外
- 事故やサビ・破損の原因になります。



必ず守る

●車いすに表示されている「使用者最大体重」は、積載物も含んだ重さです。最大体重を守ってください。

●認知証（痴呆症）の方がご使用される場合は、必ず介助者が付き添ってください。

また、車いすのシート、部品等を飲み込むことや一度かけた駐車ブレーキを不意に解除されることがありますので、充分ご注意ください。

●座面中央部に安定した姿勢で座ってください。

また、介助者は、ご利用者が安定した姿勢で座していることを確認してください。

●介助者は、ご利用者の身体の一部または衣服がタイヤ、スポーク、キャスト及び地面、建物、通行者に触れたり、挟まったりしないよう、車いすに安全に座れているか確認してから操作してください。

●安全ベルトは、必ず装着してください。

●ブレーキの効きが強すぎたり弱すぎる場合は、すぐに使用を中止して販売店にご相談ください。

そのまま使用を続けると事故の原因となります。

●ブレーキは必ず手で操作してください。

足などで操作するとブレーキが破損する恐れがあります。

●肘掛け（アームサポート）に腕を乗せたまま、肘掛け（アームサポート）を跳ね上げしないでください。

●肘掛け（アームサポート）を上げた状態でご使用ください。

転倒の原因となり、大変危険です。





注意

取り扱いを誤った場合、傷害にいたる可能性または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。



- 走行中は、足を必ずステップ板（フットサポート）の上に載せておいてください。
※足を地面につけたりステップ板（フットサポート）から外すと、ステップ板（フットサポート）と地面の間に足が巻き込まれてケガをする恐れがあり、危険です。
- ステップ板（フットサポート）が障害物に接触しない高さで使用してください。
- ステップ板（フットサポート）に足をのせたまま、脚部（フットレッグサポート）を取り外ししないでください。
- 車いすに乗り降りの際は、必ずフットサポートを収納してください。
絶対にフットサポートの上に乗って車いすに乗り込んだり、立ち上がらないでください。
転倒の原因となります。
- 段差の前では一旦停止してティッピングレバーを利用し乗越えてください。
- シート（クロス）パイプがシート（クロス）受けに収まっている事を確認してご使用ください。万が一、シート（クロス）受けから浮いた状態でご使用されますと、フレームが歪んだり、故障の原因となり事故につながる恐れがあります。
- 車いすに水をかけないでください。
電気部品が故障する恐れがあります。
- シートがやぶれた場合は、必ずシートを交換してください。また、故意にシートを切断する等の加工を絶対にしないでください。シートを破談したり、加工した状態でご使用されますとフレームが歪んだり、破断する原因となります。また、シート取付ネジが歪んだり、欠落すると事故の原因になります。
- 面ファスナーに糸くず、汚れなどが付いたときは取り除いてください。
取り除かないと、面ファスナーの接着力が弱くなり、事故の原因となります。



なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
※以上の注意点以外であっても、無理な使用はおやめください。事故の原因になります。

[製品の特徴・使用目的]

この商品は、ティルティング・リクライニング車いすです。

- 背もたれが倒れ、リラックスでき、前ズレしにくい設計です。
- この商品は、一人乗り用です。

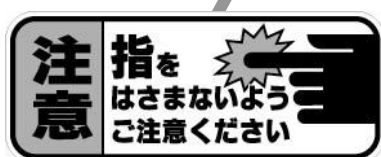
1. 同梱部品の確認

本製品には、以下の部品が同梱されていますので確認してください。

- ・ 工具
- ・ 取扱説明書（保証書はがき）

2.安全ラベル

- 取扱上の重要な事項を記載した安全ラベルが貼ってあります。
- 安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
- 安全ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。



3.各部名称



- ① 押手（手押しハンドルグリップ）
- ② 枕
- ③ 背もたれ（バックサポート）
- ④ 肘掛け（アームサポート）
- ⑤ ステップ板
- ⑥ キャスタ（前車輪）
- ⑦ 後車輪
- ⑧ 足踏みブレーキ
- ⑨ 充電器
- ⑩ アームサポートスライドピン
- ⑪ リクライニングコントローラー
- ⑫ 充電器差し込み口

① 介助者が車いすを移動させる際に握る部分です。
 ② 首が横に倒れないような形になっています。
 ③ 背部がよりかかる場所です。
 ④ 高さを3段階で調節できます。（上下式）
 ⑤ 足を置く場所です。
 ⑥ 自在に方向転換できる小車輪です。
 ⑦ 主輪です。
 ⑧ 介助者が駐車ブレーキをかける際に踏みます。
 ⑨ 専用充電器です。
 ⑩ 肘掛けの高さを調節します。
 ⑪ 背もたれ角度を調整するときに使います。
 ⑫ 充電器を差し込む場所です。

4.ご使用に関するお願い

車いすを使用する前に、安全のため各部の点検を行ってください。
長期間使用を続けると、劣化が生じます。

★装着品の確認

- ・ 背ベースシート、座ベースシート、脚部ベースシートは、しっかりと固定されていますか？
- ・ クッション、枕は、しっかりと取付けられていますか？
- ・ 肘掛け（アームサポート）は、しっかりと固定されていますか？
- ・ 背もたれは、しっかりと固定されていますか？
- ・ 脚部（フットレッグサポート）は、しっかりと取付けられていますか？

★後車輪の確認

- ・ タイヤに空気が十分入っていますか？（タイヤを指で押しても容易にへこまないか）
- ・ バルブが緩んでいませんか？
- ・ タイヤにキズがありませんか？異物が刺さっていませんか？
- ・ タイヤの溝が十分残っていますか？変形していませんか？

★ブレーキの確認

- ・ 駐車ブレーキ（及び制動用ブレーキ）が正しく作動しますか？
- ・ ブレーキをかけた状態で後車輪が回転しませんか？

★肘掛け（アームサポート）

- ・ スムーズに（上下）作動できますか？
- ・ しっかりと固定できますか？
- ・ キズや亀裂等はありませんか？

★脚部（フットレッグサポート）

- ・ スムーズにスイングアウト、脱着できますか？
- ・ しっかりと固定できますか？
- ・ ステップ板（フットサポート）がパタパタしていませんか？
- ・ キズや亀裂等はありませんか？

★全体的に

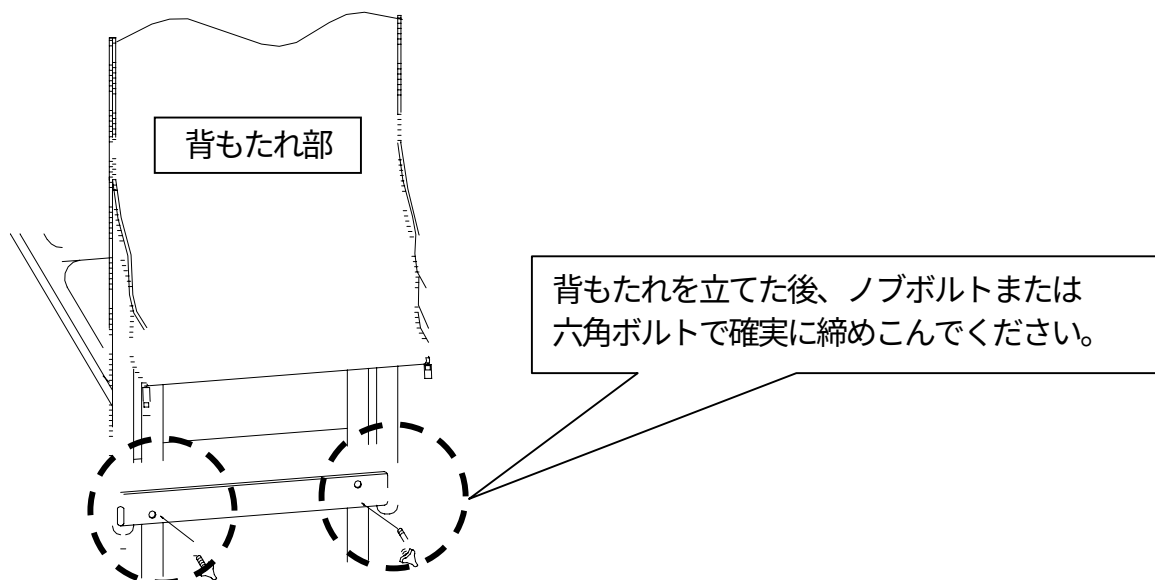
- ・ ガタつきはありませんか？
- ・ まっすぐに走りますか？
- ・ 各部ボルトやナットが緩んでいませんか？
- ・ 背折れ金具がしっかりと固定されていますか？
- ・ 背クッション、座クッションがしっかりと取り付けられていますか？

★介助者へ

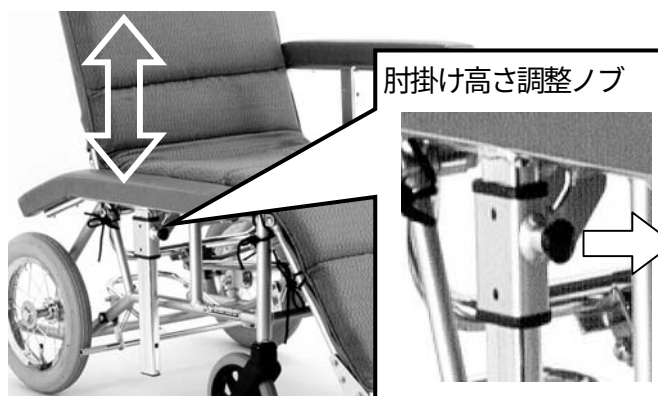
- ・ 長期間の使用や使用頻度によっては、ガスダンパーやキャスタ車輪、フットサポート、アームサポート等の劣化がすすむことがあります。使用前点検を励行してください。異常がある場合は、使用を中止してください。
- ・ 次のような場所では必ず介助する人が付き添い、利用者の身体を支えるなど転倒防止に努めてください。
 - ・ 急な坂道
 - ・ 凹凸や段差のある場所
 - ・ 踏み切りの横断、エレベーターの乗り降りなどの溝のある場所
 - ・ その他危険が考えられる場所
- ・ 車いすに載って介助しないでください。
- ・ 利用者の身体の一部（手や足）及び衣服が、タイヤに触れたり挟まったりしないよう注意してください。
- ・ 利用者の身体の一部（手や足）及び衣服が、建物、通行者及び地面に触れたり挟まったりしないように注意してください。
- ・ 車いすに重い荷物を載せたり、押手に提げたりしないでください。

5.使用準備

背もたれをフレームに固定してください。



5.肘掛け（アームサポート）の使用方法



肘掛け（アームサポート）高さを、
☆22cm
☆24cm
☆26cm
の3段階で調整できます。

上図のように下まで下ろすこともできます。（移乗の際に便利です。）

調整するときは、肘掛け（アームサポート）高さ調整ノブを引いて肘掛け（アームサポート）を上下させます

注意

- 肘掛け（アームサポート）を調整したあとは、肘掛けの高さ調整ノブがしっかり固定されていることをご確認ください。
- 肘掛け（アームサポート）を降ろす際に肘掛けとシートの間で手をはさまないようにご注意ください。

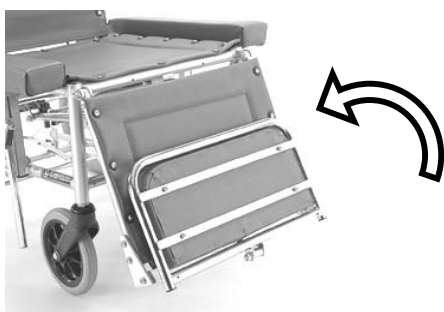
5.リクライニングの方法

- 通常、電動リクライニング用コントローラーはアームサポート横側のフックにかけておいてください。
- リクライニングするときはコントローラーをフックから外し、コードが手前になるように持ちます。
- 上側のボタンを押せば上昇し、下のボタンを押せば下降します。ボタンは離すと止まります。
- 背もたれと脚部は連動して上下します。

<電動リクライニングについて>

- 電動リクライニングは電動でのみ動かすことができます。手動では動きません。
- 電動リクライニングのモーターは連続使用をしないでください。故障の原因になります。
- 使用後はコントローラーを必ずフックに戻してください。ひざの上に置いた状態では、誤作動の原因になります。

5.ステップ板（フットサポート）の使用方法



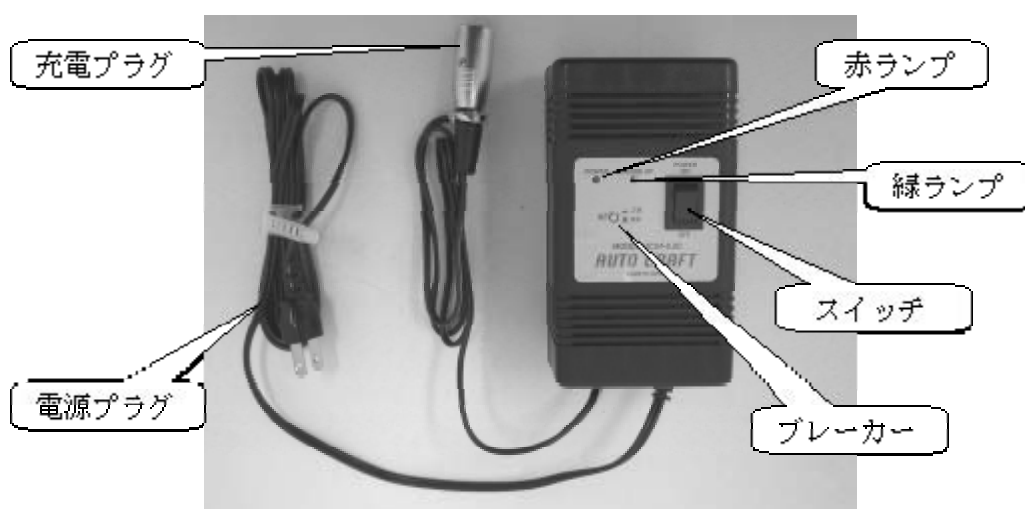
乗り降りの際には、ステップ板（フットサポート）を左図のように手で跳ね上げます。

注 意

- 車いすに乗り降りの際は、必ずステップを上跳ね上げてください。
- 絶対にステップの上に乗らないでください。車いすごと転倒し、大変危険です。

6.充電の方法

- 1.充電口のふたを上へ回転させて開き、充電器のプラグを車いすの充電器差込み口に差し込んでください。（充電器のスイッチは“OFF”になっていることを確認してください。）
- 2.電源プラグを家庭用コンセントに差し込んでください。
- 3.充電器のスイッチを“ON”にします。
- 4.充電を開始すると、赤ランプが点灯します。
- 5.充電が終わりに近づくと、緑のランプも点灯します。
- 6.完了すると赤ランプが消え、緑のみが点灯します。
- 7.充電が完了したら、充電器のスイッチを切り、電源プラグを抜いてください。
- 8.充電器のプラグを抜いてください。



《バッテリーに関する注意事項》

注意

- バッテリーは消耗品です。正常な使い方をしていても、充電を繰り返しているうちに徐々に劣化し、使用時間が短くなります。
- バッテリーはシールドタイプですので、バッテリー液の補充の必要はありません。
- バッテリーの充電は必ず専用充電器で行い、火気のない風通しの良いところ、雨露のかからないところで充電してください。
- 充電は必ず充電完了まで行ってください。充電の中断を繰り返すとバッテリーの劣化が早まります。
- 長期間ご使用にならない場合でも、月に一度は充電してください。バッテリーを長持ちさせることができます。
- 専用のバッテリーおよび充電器以外は絶対に使用しないでください。
- 充電中にバッテリーに火気を近づけないでください。引火、爆発する恐れがあります。
- 手や車体が濡れているときは乾くまで触らないでください。感電の恐れがあります。
- バッテリーを掃除するときは、乾いた布で拭かないでください。静電気が発生し爆発するおそれがあります。

7.ブレーキの使用方法

<足踏みブレーキ>



足で踏むことにより駐車ブレーキがかかります。

注意

- 車いすに乗り降りの際は、必ず足踏みブレーキ（駐車ブレーキ）をご使用ください。車いすが動くと大変危険です。

<介助ブレーキ>



介助ブレーキレバー

<介助ブレーキ付きタイプ (RR80NB) をご使用の場合>

左図のブレーキレバーを握ると、ブレーキがかかります。離すと解除されます。

警告

※一ヶ月に一度は安全点検を行ってください。

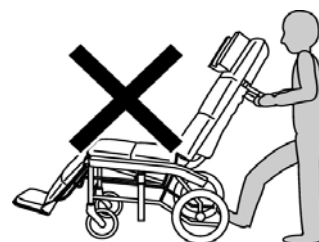
- ブレーキの効き目が強すぎたり弱すぎたりする場合は、ご使用を中止し販売店にご相談ください。
- ブレーキは必ず手で操作してください。足などで操作するとブレーキが破損します。
- ブレーキレバーの作動方向以外に力を加えないでください。また、必要以上に力を加えないでください。ブレーキが変形・破損する恐れがあります。



- 坂道や傾斜地では駐車しないでください。坂道や傾斜地では駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があります、大変危険です。（滑りやすい床面などでは駐車ブレーキをかけても車いすが動く場合があります。）

10.段差乗り越えの方法

リクライニング車いすの場合は後方に転倒しにくい様に設計されています。押手とティッピングバーだけで持ち上げますと、車体に負荷がかかり破損の原因になります。段差を乗り越える際は車体前方を持ち上げてください。



11.ガススプリングの廃棄方法

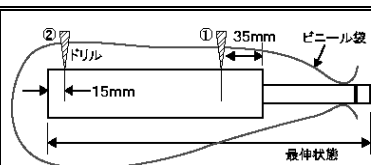
廃却する際は、次の注意を守ってください。この部品は、窒素ガスが高圧で封入してあるため、ガスを抜かずに処理すると、爆発によりケガをすることがあります。

(注意事項)

- ・押しつぶさない。
- ・切断しない。
- ・図以外の場所に孔を開けない。
- ・火に入れない。

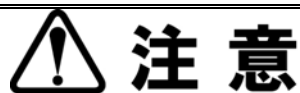
(廃却の手順)

- 1.プッシュロッドを押し、最伸状態にする。
- 2.ビニール袋をかぶせ、その上から2～3mmドリルで□の孔をあけ、ガス・油を抜いたあと□の孔をあけてください。(必ず□□の手順を守ってください。)
- 3.ビニール袋を使用しない場合は、油や切粉が飛びますので充分ご注意ください。(この場合メガネをかけて作業してください)



左図の要領で孔をあけ、ガス抜きをしてから廃却してください。

★ガススプリングの取り扱い上の注意



- 摺動部に注油は一切不要です。注油するとシールの耐久性をなくし油漏れの原因となります。
- 衝撃を加えることは絶対に避けてください。油漏れ、作動不良、破損の原因になります。
- 分解することは絶対に避けてください。高圧ガスが封入されていますので、分解すると非常に危険です。
- 曲げ荷重の負担がかかりますと曲げ方向の剛性が少ないので取り付けの精度によりロッドが曲がり作動不良の原因となります。
- ピストンロッドおよびシリンダーに打痕をつけるとシールの寿命を縮めたり、作動不良の原因になります。
- 周囲の気温があまり高いまたは低い場所でのご使用はご注意ください。-10℃～80℃の範囲内でご使用ください。
- 雨や水のかかる場所、ホコリの多い場所でのご使用は避けてください。

16.お手入れの方法

★金属部分（フレーム）

ホコリや泥などで汚れた場合はそのまま放っておかずに、水気をよく絞ったやわらかい布などで拭き取ってください。汚れがひどいときは中性洗剤を布にしみ込ませて拭き取り、その後、水気をよく絞った柔らかい布で拭き取ってください。凹凸のある部分の汚れ、頑固にこびり着いた汚れは、市販の中性洗剤を用いてください。

★樹脂（プラスチック）部

樹脂（プラスチック）部品には、市販の中性洗剤をご使用ください。

★クッション、シート類

シート部分をぬるま湯で拭き、きれいな水で仕上げ拭きを行い、乾かしてください。

＜汚れがひどいとき＞

- 汚れがとれにくい場合は、中性洗剤を用いてください。その後、乾燥させてください。
- しみは、スポンジまたは柔らかいブラシを用いて取り除いてください。
- 洗う場合は、ぬるま湯で手洗いしてください。洗濯機、乾燥機の使用はお避けください。
- クッション表面に面ファスナー（オス）が接触しないようにしてください。（クッション生地のはつれ、けばだちの原因となります。）

注意

- 水などをかけないでください。（水洗いはしないでください。）
電気部品の故障やモーターの回転不良などの原因になる恐れがあります。
- シンナー、ベンジン、ガソリン等で拭かないでください。変形や損傷などの原因となります。
- から拭きしないでください。

12.保管についてのお願い

車いすは、お手入れ後、安全な場所に保管してください。

注意

- 下記のようなところに車いすや部品を放置しないでください。
 - ・車道に近いところ
 - ・路面に段差や凸凹のあるところ
 - ・海沿いの屋外(潮風の当たるところ)
 - ・非常口、消火器、消火栓の前
 - ・ストーブなど火気を使用し高温になる場所
 - ・子供がいたずらをする恐れのある場所
 - ・人通りのあるところ
 - ・湿気の多いところ
 - ・雨、風のあたる場所
 - ・直射日光の当たる場所（車内も含む）
 - ・坂道
 - ・暑い日や寒い日の戸外
 - ・ほこりの多い場所

15.保守・点検

1 ヶ月に一度は安全点検を行ってください!!

★タイヤに空気は十分入っていますか？



空気入タイヤをご使用の場合は、空気圧にご注意ください。

タイヤの性質上空気は自然と減っていくので 1 ヶ月に 1 回は空気を入れてください。

目安として、タイヤを手で押してもやや硬い（軟式野球ボール程度の硬さ）に空気を入れてください。

空気圧が低すぎると駆動が重くなり、またブレーキの効きが悪くなります。

高すぎるとクッション性が悪くなります。

★タイヤの溝は十分認識できますか？

タイヤの減りが激しいものはパンクの原因になったり走行性やブレーキの効きが悪くなるので交換が必要です。また、タイヤやキャストのひび割れにもご注意ください。

★車輪やキャストはしっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャストを留めているボルトは緩んでいませんか？緩んでいると使用中突然車輪やキャストが外れて転倒するなど大変危険です。充分ご確認の上、しっかりと締めてください。

★ブレーキはしっかり効きますか？



タイヤの空気圧が下がると駐車ブレーキの効きが弱くなります。

空気圧のチェックとともにブレーキの取付ネジの緩み、ブレーキ本体のガタなどがないかご確認ください。もし、異常がございましたら、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

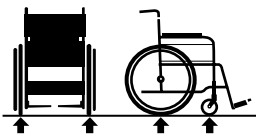
★フットプレートはしっかり固定されていますか？

付属品のスパナを使って、ステップパイプ先端のボルトを緩め、適当な高さに合わせた後、ボルトを完全に締めてください。

★変な音がしませんか？

変な音がする場合、どこでその音が発生しているかをご確認してください。ブレーキワイヤーが車輪に擦れている、ベアリング部の油分が不足しているなどの原因が考えられます。原因が不明な場合、修理不可能な場合はお買い上げの販売店までご連絡ください。

★四点接地していますか？



前輪二輪と中央輪が接地しているかご確認ください。

四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩みが考えられます。直ちにお買い上げの販売店までご連絡ください。

異常が見つかったらご使用を中止してください。

★まっすぐ進みますか？

平地で車いすを左右均等な力で押してください。自然に曲ってしまう場合、どこかが歪んでいる可能性があります。原因となっている箇所の修理・交換を行ってください。



★シートに破損やたるみ、傷みはありませんか？

車いすは湿気に弱いので、雨にぬれる場所などに放置していたり、長時間続けてご使用になるとシートに破損・たるみが発生します。座り心地を損なわない姿勢が保ちにくくなりますので、たるみ・破損が著しい場合は交換をおすすめします。

★ネジの緩みはありませんか？

ガタがある場合は、ネジの緩みや脱落が考えられます。ネジが緩んでいたら必ずしっかりと締めてください。締めてもすぐに緩む、締まらないなどの不具合があれば、直ちにご使用をお止め頂き、すぐにお買い上げの販売店までご連絡ください。

★きちんと折りたためますか？



折りたたみに異常がある場合、クロスの金具のネジの緩みや摺動部分の油切れが考えられます。ネジの締め付け、注油を行ってください。

★車輪やキャスタはしっかり固定されていますか？

車輪を留めているボルト、キャスタを留めているボルトは緩んでいませんか？緩んでいると使用中突然車輪やキャスタが外れて転倒するなど大変危険です。充分ご確認の上、しっかりと締めてください。

★ハンドリムはしっかり固定されていますか？（18in のみ）

ハンドリムにガタがある場合、取り付けネジの緩みが考えられます。取付ネジをしっかりと締めてください。

★ワイヤーは切れていませんか？

ブレーキワイヤー、リクライニングワイヤーは切れていませんか？安全のために、1年に1度定期的に交換してください。

★絶対に洗淨しないでください。

この製品は、電気製品です。水をかけると故障の原因となります。



注 意

- スパナやドライバーなどの工具の使用にて締め付ける場合、薄手の手袋をご使用ください。
- 異常が見つかったら、直ちにご使用を中止して販売店へご相談ください。

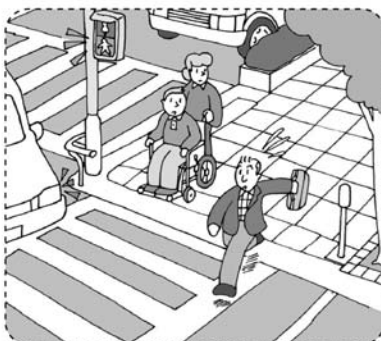
17.車いすの主な乗り方



警告

- タイヤの空気が十分入っているか確認しましょう。
- 下り坂は加速がつき危険です。いつでもブレーキがかけられるよう慎重に。
- いきなり公道に出るのは危険です。屋内や庭など安全な場所で練習しましょう。
- 車道はできるだけ通らず、歩道や十分な幅のある路側帯を通りましょう。

車いすは歩行者として扱われます。
歩行者としての交通ルールを守りましょう。



- 「自転車及び歩行者専用」、「歩行者専用」のマークのある歩行者専用道路も通ることができます。
- 信号機のある場所では、「青」が点滅中に横断するのは危険です。次の「青」信号を待ちましょう。

★焦らずゆとりを持った横断、
走行を心掛けましょう。

★移乗

車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。
双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。



介助者が片足を相手の膝の間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がさせます。



介助者の膝で相手を支えながら、車いすの方へ尻を向ける。



ゆっくりと腰を下ろしてもらおう。□「いち、にのさん」と声をかけながらおたがいに協力しましょう。

★外出（坂道）

車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”と“安全ベルト着用”が基本です。



<上り坂>

押す人は身体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します

<下り坂>

坂を下るときはブレーキを軽く使いながら、後ろ向きに一歩ずつ下ります。

安全ベルトを必ずご利用ください。

18.仕 様

品名・名称		標準仕様・規格
		RR80-PF
座 幅	(mm)	4 4 0
前座高さ	(mm)	4 4 0
レッグ長さ	(mm)	4 2 0
後座高さ	(mm)	4 2 0
シート奥行き	(mm)	4 4 0
背もたれ高さ	(mm)	8 4 0
アームレスト高さ	(mm)	2 2 0 ・ 2 4 0 ・ 2 6 0
全高	(mm)	1,2 4 0
全長	(mm)	1,2 1 0
全幅	(mm)	6 0 0
重量	(kg)	2 8 (P F E) 2 5 (P F G)
キャスト (前車輪)	(inch)	7 ニューソフト、樹脂ヨーク、パッキン式
フレーム		アルミ製
後車輪 (タイヤ)	(inch)	1 2 1/2 x 2 1/4
(チューブ)	(inch)	1 2 1/2 x 2 1/4
(ハブ)	(hole)	2 0
ベースシート (背)		ビニールレザー (グレー)
ベースシート (座)		ビニールレザー (グレー)
シートクッション (枕付)		表地：ビニールレザー (№43 緑) 中クッション：ウレタンスポンジ
肘掛け (アームサポート)		上下式
(肘当てパッド)		表地：ビニールレザー (グレー) / 中クッション：チップ
ハンドグリップ (にぎり)		φ2 2mm 用 黒色 (反射板付)
フットプレート (ステップ板)		左右一体式 中クッション：チップ / 表地：ビニールレザー (グレー)
駐車ブレーキ		足踏み式
リクライニング装置		電動アクチュエーター ストローク 100 mm/ 24V (P F E) ガススプリング式 ストローク 75 mm (P F G)
背もたれ角度		110~140 度 (P F E) 110~135 度 (P F G)
バッテリー		12V 2.2Ah × 2 ケ
充電器		入力 AC 100V 出力 24V 0.5A

※記載の寸法は設計値であり、実際の車体とは多少誤差がある場合があります。

19.製品記録

アフターサービスなどを的確に受けるため、車種・製造月を記録しておいてください。

車 種	
製 造 月	年 月

<シール貼付位置>

クロス金具後側に貼付

****年 **月
株式会社 **カワムラサイクル**



製造番号



車種名

20.保証とアフターサービス

弊社の定める保証とは、正常な使用状態において、故障が生じた場合に限り、無償にて修理を行うことをお約束するものです。

★保証書

この商品には保証書を別途添付しております。保証書は所定の事項を記入のうえ、商品購入後 1 ヶ月以内に当社へご返送ください。

保証期間はお買い上げ日より 1 年間です。

★保証期間後

お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって商品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

★保証の適用除外となる場合

- (a) ご使用による消耗品および取扱不注意による破損
例) タイヤの磨耗およびパンク、シート、ステップ板の破損等
- (b) 地震、台風、水害などの天災および事故、火災による焼失・破損
- (c) お取扱の不注意、操作未熟ならびに故意または過失など誤って使用されたことによる破損
- (d) 保全上の不備および弊社の特約販売店以外で行った修理や改造等による破損
- (e) 弊社が指定する純正部品以外のパーツ等の使用により発生した破損
- (f) 一般に車いすが走行しない場所、または特殊な状態での使用による破損
- (g) 製品本来の使用目的にそぐわない使用による故障および破損
- (h) 取扱説明書に従わずに使用して生じた故障および破損
- (i) 取扱説明書に禁じられている使用方法によって生じた故障
- (j) ご購入後 1 ヶ月以内に登録されていない場合
- (k) 日本国外でご使用の場合

★消耗部品

- | | | |
|-----------|----------|---------------|
| ・肘当てパッド | ・ワイヤー | ・バンド式介助ブレーキ本体 |
| ・前輪(車輪のみ) | ・背ベースシート | ・バッテリー |
| ・ベアリング | ・背クッション | ・ふくらはぎパッド |
| ・タイヤ | ・座ベースシート | ・板バネ |
| ・チューブ | ・座クッション | ・ガスダンパー |
| ・虫ゴム | ・足ベルト | ・メカニカルロック |

★補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの商品の補修用性能部品を製造打ち切り後、5 年保有しています。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

★修理のご依頼

異常がある場合は、ご使用を中止しお買い上げの販売店にご依頼ください。

★本製品を他人に譲る場合

この製品を他の方にお譲りになる時は、必ず本書もあわせてお渡してください。

※一度使用したものは、原則として製品のお取り替えはできません。

RR80 シリーズ

地球の環境保護のため、廃棄するときにはそのまま放置しないで
各自治体の取り決めにしたがってください。



株式会社 **カワムラサイクル**



■本社	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2800
■仙台サービスセンター	〒982-0023	宮城県仙台市太白区鹿野 3-1-1	TEL022-746-9540
■東京サービスセンター	〒110-0013	東京都台東区入谷 1-8-3	TEL03-3874-3511
■横浜サービスセンター	〒220-0073	横浜市西区岡野 2-12-9	TEL045-290-9585
■名古屋サービスセンター	〒487-0027	愛知県春日井市松本町 1-3-11	TEL0568-52-4800
■大阪サービスセンター	〒553-0004	大阪市福島区玉川 1-3-18 マックスビル 5 階	TEL06-6479-2055
■本店サービスセンター	〒651-2411	兵庫県神戸市西区上新地 3-9-1	TEL078-969-2820
■福岡サービスセンター	〒819-0055	福岡市西区生の松原 1-18-3	TEL092-882-4722
■神戸工場 ■神戸第二工場 ■いなみの工場			

※本書に記載の意匠、仕様および部品の性能向上の為に、一部予告なく変更することがあります。

修理・お手入れ・お取扱いなどのご相談は、まずお買い求めの販売店へお申し付けください。

・転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、上記へ。